

18年度班会議

日時：2007年2月10日（土） 11:00～16:00

場所：ホテルはあといん乃木坂健保会館 311号室
107-0062 東京都港区南青山1-24-4

議題：研究成果発表

出席者：村田美穂、浅沼幹人、岩本康之介、金澤一郎、久保 円、近藤智善、
橋 吉寿、戸田達史、南部 篤、野元正弘、長谷川一子、浜 喜和、
町田 裕、三輪英人、宮崎育子、遠藤史人、小貫祥子、堤 悦子、藤田晶子
(以上19名)

～プログラム～

- 11:00～ ご挨拶 村田美穂
- 11:10～11:35 基底核ニューロンの発振活動からゾニサミドの作用機序を探る
○南部 篤, 橋 吉寿 生理学研究所・生体システム研究部門
- 11:35～12:00 実験的振戦に対するゾニサミドの効果
(Tacrine-induced tremulous jaw movements に対する効果)
○近藤智善, 三輪英人, 浜 喜和, 梶本賀儀 和歌山県立医科大学神経内科
- 12:00～12:25 パーキンソン病の遺伝子多型と発症リスクおよびゾニサミドの薬剤効果の研究
○戸田達史¹, 水田依久子¹, 佐竹 渉¹, 孫 浩¹, 猪子英俊², 長谷川一子³,
渡邊雅彦⁴, 武田 篤⁵, 山本光利⁴, 服部信孝⁷, 村田美穂⁸
1. 大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝学 2. 東海大学医学部分子生命科学 2
3. 相模原病院神経内科 4. 筑波大学医学系研究科神経内科 5. 東北大学医学系
研究科神経内科 6. 香川県立中央病院神経内科 7. 順天堂大学医学部神経内科
8. 国立精神神経センター武蔵病院神経内科
- 12:25～13:25 昼食

- 13:25~13:50 ゾニサミドの神経細胞保護機構に関する検討
○町田 裕, 服部信孝 順天堂大学医学部脳神経内科
- 13:50~14:15 ゾニサミドのドパミンキノン毒性に対する保護効果ならびに脳内グルタチオン増加作用の発現機序
○浅沼幹人, 宮崎育子 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科神経情報学
- 14:15~14:40 プロテアソーム阻害薬投与時のサルノの行動とドパミン神経細胞の検討
○野元正弘, 久保 円, 西川典子 愛媛大学大学院医学系研究科病態治療内科
- 14:40~15:05 Zonisamide の神経保護作用の臨床的評価
○村田美穂 国立精神・神経センター武蔵病院神経内科
- 15:05~15:30 腎不全患者における RLS の頻度
○岩本康之介¹, 堀内恵美子¹, 長谷川一子¹, 吉田 熙², 高橋裕一郎³, 永岡 隆⁴, 小林直之⁵
1. 国立病院機構相模原病院神経内科 2. 相模原循環クリニック
3. 腎健クリニック 4. 相模原クリニック 5. ニーレンクリニック
- 15:30~16:00 総合討論

19年度班会議

日時：2008年2月9日（土） 11:00～16:00

場所：ホテルはあといん乃木坂健保会館 311号室
107-0062 東京都港区南青山1-24-4

議題：研究成果発表

出席者：村田美穂、浅沼幹人、梶本賀儀、金澤一郎、久保 円、佐野裕美、
橋 吉寿、戸田達史、南部 篤、野元正弘、長谷川一子、服部信孝、町田 裕、
宮崎育子、工藤里美、堤 悦子、藤田晶子 (以上 17名)

～プログラム～

11:00～ ご挨拶 村田美穂

11:10～11:35 ゾニサミドの作用機序に関する研究
ーパーキンソン病モデルサルとマウスによる検討
○南部 篤, 橋 吉寿, 佐野裕美 生理学研究所・生体システム研究部門

11:35～12:00 パーキンソン病患者における Zonisamide の長期投与効果の検討
○梶本賀儀, 中西一郎, 近藤智善 和歌山県立医科大学神経内科

12:00～12:25 パーキンソン病の遺伝子多型と発症リスクおよびゾニサミドの薬剤効果の研究
○戸田達史¹⁾、水田依久子¹⁾、佐竹 渉¹⁾、角田達彦²⁾、渡邊雅彦³⁾、武田 篤⁴⁾、
長谷川一子⁵⁾、中島健二⁶⁾、山本光利⁷⁾、服部信孝⁸⁾、村田美穂⁹⁾
¹⁾ 大阪大学院臨床遺伝、²⁾ 理研遺伝子多型解析センター、³⁾ 筑波大学神経内科
⁴⁾ 東北大学神経内科、⁵⁾ 国立病院機構相模原病院神経内科、⁶⁾ 鳥取大学脳神経内科
⁷⁾ 香川県立中央病院神経内科、⁸⁾ 順天堂大学脳神経内科、
⁹⁾ 国立精神・神経センター武蔵病院神経内科

12:25～13:25 昼食

13:25～13:50 ゾニサミドの神経細胞保護機構に関する検討
○町田 裕, 服部信孝 順天堂大学医学部脳神経内科

- 13:50~14:15 ゾニサミドのドパミン神経保護効果ならびに脳内グルタミン増加作用の発現機序
○浅沼幹人, 宮崎育子 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科神経情報学
- 14:15~14:40 神経毒に対する zonisamide の保護作用—MPTP、PSI に対する作用—
○野元正弘, 久保 円, 西川典子 愛媛大学大学院医学系研究科病態治療内科学
- 14:40~15:05 ゾニサミド投与によるラット線条体および大脳皮質の遺伝子発現プロファイル
○村田美穂 国立精神・神経センター武蔵病院神経内科
- 15:05~15:30 関節リウマチにおける RLS の頻度—パイロットスタディー—
○長谷川一子², 當間重人¹, 松井利浩¹, 中山久徳¹, 島田浩太¹, 道下和也¹, 池中達央¹, 堀内恵美子²
1. 独立行政法人国立病院機構相模原病院リウマチ科
2. 独立行政法人国立病院機構相模原病院神経内科
- 15:30~16:00 総合討論

20年度 夏のワークショップ

日時： 2008年8月29日(金)～30日(土)
8月29日(金)19:30～22:30
8月30日(土)9:00～13:00

場所：淡路夢舞台 国際会議場
兵庫県淡路市夢舞台1番地

出席者：村田美穂、野元正弘、南部 篤、浅沼幹人、佐野裕美、戸田達史、和田圭司、
近藤智義、服部信孝、宮崎育子、波田野琢、中村治雅、永井将弘、中西一郎、
畑中仲彦、山根容子 (以上16名)

新規抗パーキンソン病薬ゾニサミドの神経保護作用に関する臨床研究班ワークショップ プログラム

8月29日金曜日

- 19:30 あいさつ 国立精神・神経センター病院神経内科 村田美穂
- 19:40 抗パーキンソン病薬の治験の動向:世界における日本の立場
国立精神・神経センター病院神経内科 中村治雅先生
- 20:40 討論
- 21:00 抗パーキンソン病薬開発の動向(神経保護薬を中心に)
順天堂大学医学部脳神経内科 教授 服部信孝先生
- 22:00 総合討論
- 22:30 終了予定

8月30日土曜日

- 9:00 ZNSの神経保護作用-アストログリアの抗酸化機構の重要性
岡山大学大学院医歯薬総合研究科 准教授 浅沼幹人先生
- 10:00 討論
- 10:30 グリア-ニューロン機能連関
国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第4部部長 和田圭司先生
- 11:30 総合討論
- 13:00 終了

20年度班会議

日時：2009年2月7日（土） 11:00～16:00

場所：ホテルはあといん乃木坂健保会館 311号室
107-0062 東京都港区南青山1-24-4

議題：研究成果発表

出席者：村田美穂、金澤一郎、浅沼幹人、宮崎育子、近藤智善、久保 円、佐野裕美、戸田達史、南部 篤、野元正弘、チョウドリー エムディ エマムソサレヒン、長谷川一子、堀内恵美子、町田 裕、河尻澄宏、佐藤栄人、三輪英人、畑中仲彦、堤 悦子、藤田晶子、山根容子 (以上21名)

～プログラム～

11:00～ ご挨拶 村田美穂

11:10～11:35

- ① 実験的パーキンソン病振戦モデルに対するゾニサミドの効果
○三輪英人、久保友美、梶本賀義、浜喜和、近藤智善 和歌山県立医科大学神経内科

11:35～12:00

- ② パーキンソン病治療におけるゾニサミドの長期効果—9年間までの follow up
○村田美穂 国立精神・神経センター病院 神経内科

12:00～12:25

- ③ パーキンソン病の遺伝子多型と発症リスクおよびゾニサミドの薬剤効果の研究

○戸田達史^{1) 2)}、佐竹渉¹⁾、水田依久子¹⁾、三井純³⁾、長谷川一子⁴⁾、辻省次³⁾、中村祐輔⁵⁾、山本光利⁶⁾、服部信孝⁷⁾、村田美穂⁸⁾

¹⁾ 大阪大学院臨床遺伝、²⁾ 神戸大学神経内科、³⁾ 東京大学神経内科、⁴⁾ 国立病院機構相模原病院神経内科、⁵⁾ 東京大学医科学研究所、⁶⁾ 香川県立中央病院神経内科、⁷⁾ 順天堂大学脳神経内科、⁸⁾ 国立精神・神経センター病院神経内科

12:25～13:25 昼食

13:25~13:50

- 4 喘息患者における restless legs syndrome についての検討
○堀内恵美子¹⁾ 釣木澤尚実²⁾, 押方智也子²⁾, 長谷川真紀²⁾, 秋山憲義²⁾, 公文 彩¹⁾
1. 相模原病院神経内科
2. 相模原病院アレルギー科

13:50~14:15

- 5 ゾニサミドの神経保護作用の可能性について
—コモンマーモセット黒質神経細胞の免疫組織学的検討—
○チョウドリー エムディ エمامソサレヒン¹⁾, 森豊 隆志¹⁾, 久保 円¹⁾, 矢部 勇人¹⁾,
山宮 公子²⁾, 松田 正司²⁾, 野元 正弘¹⁾
1) 愛媛大学大学院病態治療内科学
2) 同 解剖学・発生学

14:15~14:40

- 6 ゾニサミドの神経保護作用—遺伝子改変パーキンソン病モデルマウスによる検討—
○佐野裕美, 南部 篤
生理学研究所・生体システム研究部門

14:40~15:05

- 7 Zonisamide の神経細胞保護機構についての検討
○河尻澄宏, 町田 裕, 齊木臣二, 佐藤栄人, 服部信孝
順天堂大学医学部脳神経内科

15:05~15:30

- 8 ゾニサミドのアストログリアの増殖促進作用の発現機序ならびにパーキンソン病モデルにおける
ドパミン神経保護効果
○浅沼幹人, 宮崎育子

15:30~16:00 総合討論

IV. 班構成員名簿

「新規抗パーキンソン病薬ゾニサミドの 神経保護作用に関する臨床研究班」

(H18-難治-一般-005)

平成18年度班構成員

	氏名	所属	職名
主任研究者	村田 美穂	国立精神・神経センター武蔵病院神経内科	第2病棟部長
分担研究者	浅沼 幹人	岡山大学大学院医歯学総合研究科 神経制御学講座神経情報学	助教授
	近藤 智善	公立大学法人和歌山県立医科大学医学部 神経内科学	教授
	戸田 達史	大阪大学大学院医学研究科遺伝医学講座 臨床遺伝学	教授
	南部 篤	岡崎大学共同利用機関法人自然科学研究機構 生理学研究所生体システム研究部門	教授
	野元 正弘	愛媛大学大学院医学系研究科病態治療内科学	教授
	長谷川一子	独立行政法人国立病院機構相模原病院 神経内科	医長
	服部 信孝	順天堂大学医学部附属順天堂医院 脳神経内科	教授
事務局	小貫 祥子 工藤 里美 和8.11.30まで 藤田 晶子	国立精神・神経センター武蔵病院 第2病棟部長室 〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1 Tel. 042-346-2712(3419) Fax. 042-346-1735	

「新規抗パーキンソン病薬ゾニサミドの 神経保護作用に関する臨床研究班」

(H18-難治 - 一般 - 005)

平成 19 年度班構成員

	氏 名	所 属	職 名
主任研究者	村田 美穂	国立精神・神経センター武蔵病院神経内科	第2病棟 部長
分担研究者	浅沼 幹人	岡山大学大学院医歯学総合研究科 神経制御学講座神経情報学	准教授
	近藤 智善	公立大学法人和歌山県立医科大学医学部 神経内科学	教 授
	戸田 達史	大阪大学大学院医学研究科遺伝医学講座 臨床遺伝学	教 授
	南部 篤	岡崎大学共同利用機関法人自然科学研究機構 生理学研究所生体システム研究部門	教 授
	野元 正弘	愛媛大学大学院医学系研究科病態治療内科学	教 授
	長谷川一子	独立行政法人国立病院機構相模原病院 神経内科	医 長
	服部 信孝	順天堂大学医学部附属順天堂医院 脳神経内科	教 授
事務局	小貫 祥子	国立精神・神経センター武蔵病院 第2病棟部長室 〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1 TEL. 042-346-2712 (3419) Fax. 042-346-1735	

「新規抗パーキンソン病薬ゾニサミドの 神経保護作用に関する臨床研究班」

(H18-難治 - 一般 - 005)

平成 20 年度班構成員

	氏 名	所 属	職 名
主任研究者	村田 美徳	国立精神・神経センター病院神経内科	第2病棟 部長
分担研究者	浅沼 幹人	岡山大学大学院医歯学総合研究科 神経制御学講座神経情報学	准教授
	近藤 智善	公立大学法人和歌山県立医科大学医学部 神経内科学	教授
	戸田 達史	大阪大学大学院医学研究科遺伝医学講座 臨床遺伝学	教授
	南部 篤	岡崎大学共同利用機関法人自然科学研究機構 生理学研究所生体システム研究部門	教授
	野元 正弘	愛媛大学大学院医学系研究科病態治療内科学	教授
	長谷川一子	独立行政法人国立病院機構相模原病院 神経内科	医 長
	服部 信孝	順天堂大学医学部附属順天堂医院 脳神経内科	教授
事務局	山根 容子	国立精神・神経センター病院 第2病棟部長室 〒187-8551 東京都小平市小川東町 4-1-1 Tel. 042-346-2712(3419) Fax. 042-346-1735	

V. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表(平成18年度)

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
<u>Nambu A.</u>	Globus Pallidus internal segment.	Tepper JM, Abercrombie ED, Magill PJ, Bolam JP	GABA and the Basal Ganglia: From Molecules to Systems.	Elsevier		2007	238-53
宮崎育子, <u>浅沼幹人.</u>	カテコールアミン神経特異的酸化ストレスとしてのキノン体毒性とその防御.	吉川敏一	酸化ストレス—フリーラジカル医学生物学の最前線 Ver. 2	医歯薬出版	東京	2006	241-244
<u>近藤智善.</u>	パーキンソン病の内科的治療.	山口 徹, 北原光夫, 福井次矢,	今日の治療指針2006年版 [ポケット版]	医学書院	東京	2006	665-667
<u>近藤智善.</u>	パーキンソン病の内科的治療.	山口 徹, 北原光夫, 福井次矢,	今日の治療指針2006年版 [デスク版]	医学書院	東京	2006	665-667
<u>近藤智善.</u>	パーキンソン病治療薬.	矢崎義雄	治療薬Up-to-Date 2006	メディカルレビュー社	東京	2006	69-71
<u>近藤智善.</u>	パーキンソン病の治療ガイドライン.	水野美邦	神経4 パーキンソン病, 最新医学別冊, 新しい診断と治療のABC 39	最新医学社	大阪	2006	222-231
<u>戸田達史.</u>	神経変性疾患解明へ向けた遺伝学的アプローチ.	深水昭吉	実験医学増刊「分子メカニズムから解き明かす 疾患のサイエンス—癌, 循環器, 生活習慣病, アレルギー—, 神経変性疾患など, あらゆる疾患の全容と臨床応用の可能性に迫る」	羊土社	東京	2006	181-189
<u>南部 篤.</u>	大脳基底核をめぐる6つの問題.	柳澤信夫, 篠原幸人, 岩田誠, 清水輝夫, 寺本 明	Annual Review 2007 神経	中外医学社	東京	2007	15-26

村田美穂, 塚本 忠.	神経変性疾患 パーキンソン病.	北村 聖	臨床病態学	ヌーヴェル エルヒロカ ワ	東京	2006	105-112
村田美穂.	第4章 管理と 治療 新しい診 断と治療のABC 39 ドパミン作 動薬の効果と安 全性に関するエ ビデンス.	水野美邦	別冊 神経4 パー キンソン病	最新医 学社	大阪	2006	107-114
村田美穂.	新しい診断と治 療のABC 39 パーキンソン病 —最近の話題 —.	水野美邦	別冊 神経4 パー キンソン病	最新医 学社	大阪	2006	232-240

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Diaz-Corrales FJ, <u>Asanuma M</u> , Miyazaki I, Miyoshi K, Ogawa N.	Centrosome overduplication induced by rotenone treatment affects the cellular distribution of p53 tumor suppressor protein in the neuroblastoma B65 cell line.	Psychiat Clin Neurosci	60	S26-34	2006
Miyazaki I, <u>Asanuma M</u> , Diaz-Corrales, FJ, Fukuda M, Kitaichi K, Miyoshi K, Ogawa N.	Methamphetamine-induced dopaminergic neurotoxicity is regulated by quinone formation-related molecules.	FASEB J	20	571-573	2006
Narimatsu S, Yonemoto R, Saito K, Takaya K, Kumamoto T, Ishikawa T, <u>Asanuma M</u> , Funada M, Kiryu K, Naito S, Yoshida Y, Yamamoto S, Hanioka N.	Oxidative metabolism of 5-methoxy- <i>N,N</i> -diisopropyltryptamine (Foxy) by human liver microsomes and recombinant cytochrome P450 enzymes.	Biochem Pharmacol	71	1377-13 85	2006
Miyoshi K, Onishi K, <u>Asanuma M</u> , Miyazaki I, Diaz-Corrales FJ, Ogawa N.	Embryonic expression of pericentrin suggests universal roles in ciliogenesis.	Dev Genes Evol	216	537-542	2006
<u>Asanuma M</u> , Miyazaki I.	Nonsteroidal anti-inflammatory drugs in Parkinson's disease: possible involvement of quinone formation.	Expert Rev Neurother	6	1313-13 25	2006
Tanaka K, Ogawa N, <u>Asanuma M</u> .	Molecular basis of 6-hydroxydopamine-induced caspase activations due to increases in oxidative stress in the mouse striatum.	Neurosci Lett	410	85-89	2006
Miyoshi K, <u>Asanuma M</u> , Miyazaki I, Matsuzaki S, Tohyama M, Ogawa N.	Characterization of pericentrin isoforms in vivo.	Biochem Biophys Res Commun	351	745-749	2006
<u>Asanuma M</u> , Miyazaki I, Higashi Y, Diaz-Corrales FJ,	Suppression of p53-activated gene, PAG608, attenuates	Neurosci Lett	414 (3)	263-267	2007

Shimizu M, Miyoshi K, Ogawa N.	methamphetamine-induced neurotoxicity.				
Adachi K, Miwa H, Kusumoto H, Shimazu S, <u>Kondo T.</u>	Effects of subchronic treatment with selegiline on L-DOPA-induced increase in extracellular dopamine level in rat striatum.	J Pharmacol Sci	101	286-292	2006
Miwa H, Kubo T, Suzuki A, Kihira T, <u>Kondo T.</u>	A species-specific difference in the effects of harmaline on the rodent olivocerebellar system.	Brain Res	1068	94-101	2006
<u>Kondo T.</u>	Drug intervention for freezing of gait resistant to dopaminergic therapy: A pilot study.	Parkinsonism & related Disord	12	S63-S66	2006
Miwa H, Kubo T, Suzuki A, <u>Kondo T.</u>	Intragastric proteasome inhibition induces alpha-synuclein-immunopositive aggregations in neurons in the dorsal motor nucleus of the vagus in rats.	Neurosci Lett	401	146-149	2006
Suzukamo Y, Ohbu S, <u>Kondo T.</u> , Kohmoto J, Fukuhara S.	Psychological adjustment has a greater effect on health-related quality of life than on severity of disease in Parkinson's disease.	Mov Disord	21	761-766	2006
Miwa H, Hiwatani Y, <u>Kondo T.</u>	Drug discarding: A problematic therapeutic event in Parkinson's disease.	Mov Disord	22	293	2007
Mizuno Y, Kanazawa I, Kuno S, Yanagisawa N, Yamamoto M, <u>Kondo T.</u>	Placebo-controlled, double-blind dose-finding study of entacapone in fluctuating parkinsonian patients.	Mov Disord	22 (1)	75-80	2007
Mogi M, <u>Kondo T.</u> , Mizuno Y, Nagatsu T.	p53 protein, interferon-gamma, and NF-kappaB levels are elevated in the parkinsonian brain.	Neurosci Lett	414 (1)	94-7	2007
Mizuta I, Satake W, Nakabayashi Y, Ito C, Suzuki S, Momose Y, Nagai Y, Oka A, Inoko H, Fukae J, Saito Y, Sawabe M, Murayama S, Yamamoto M, <u>Hattori N, Murata M, Toda T.</u>	Multiple candidate gene analysis identifies alpha-synuclein as a susceptibility gene for sporadic Parkinson's disease.	Hum Mol Genet	15	1151-1158	2006

Taniguchi M, Kurahashi H, Noguchi S, Sese J, Okinaga T, Tsukahara T, Guicheney P, Ozono K, Nishino I, Morishita S, <u>Toda T.</u>	Expression profiling of muscles from Fukuyama-type congenital muscular dystrophy and laminin- α 2 deficient congenital muscular dystrophy; is congenital muscular dystrophy a primary fibrotic disease?	Biochem Biophys Res Commun	342	489-502	2006
Taniguchi M, Kurahashi H, Noguchi S, Fukudome T, Okinaga T, Tsukahara T, Tajima Y, Ozono K, Nishino I, Nonaka I, <u>Toda T.</u>	Aberrant neuromuscular junctions and delayed terminal muscle fiber maturation in α -dystroglycanopathies.	Hum Mol Genet	15	1279-12 89	2006
Hino-Fukuyo N, Haginoya K, Hayashi YK, Nishino I, Murakami T, Nonaka I, Togashi K, Tanaka S, Takayanagi M, Yokoyama H, Sakamoto O, Abe T, <u>Toda T, Inuma K</u>	A case of Fukuyama-type congenital muscular dystrophy with a very mild mental deficit.	Neuromuscul Disord	16	274-276	2006
Tomiyama H, Li Y, Funayama M, <u>Hasegawa K,</u> Yoshino H, Kubo S, Sato K, Hattori T, Lu CS, Inzelberg R, Djaldeiti R, Melamed E, Amouri R, Gouider-Khouja N, Hentati F, Hatano Y, Wang M, Imamichi Y, Mizoguchi K, Miyajima H, Obata F, <u>Toda T, Farrer MJ,</u> Mizuno Y, <u>Hattori N.</u>	Clinicogenetic study of mutations in LRRK2 exon 41 in Parkinson's disease patients from 18 countries.	Mov Disord	21	1102-11 08	2006
Mori T, Kurahashi H, Shinka T, Nakahori Y, Taniguchi M, <u>Toda T, Iwamoto T.</u>	Candidate genes for male factor infertility-validation.	Fertil Steril	86	1553-15 54	2006

Xiong H, Kobayashi K, Tachikawa M, Many H, Takeda S, Chiyonobu T, Fujikake N, Wang F, Nishimoto A, Morris GE, Nagai Y, Kanagawa M, Endo T, <u>Toda T.</u>	Molecular interaction between fukutin and POMGnT1 in the glycosylation pathway of α -dystroglycan.	Biochem Biophys Res Commun	350	935-941	2006
Kanagawa M, <u>Toda T.</u>	The genetic and molecular basis of muscular dystrophy: roles of cell-matrix linkage in the pathogenesis.	J Hum Genet	51	915-927	2006
Popiel HA, Nagai Y, Fujikake N, <u>Toda T.</u>	Protein transduction domain-mediated delivery of the aggregate inhibitor peptide QBP1 suppresses polyglutamine-induced neurodegeneration in vivo.	Mol Ther	15	303-309	2007
Funayama M, Li Y, Tomiyama H, Yoshino H, Imamichi Y, Yamamoto M, <u>Murata M, Toda T, Mizuno Y, Hattori N.</u>	LRRK2 G2385R variant is a risk factor for parkinson disease in Asian population.	Neuroreport	18(3)	273-5	2007
Saito F, Masaki T, Saito Y, Nakamura A, Takeda S, Shimizu T, <u>Toda T, Matsumura K.</u>	Defective peripheral nerve myelination and neuromuscular junction formation in fukutin-deficient chimeric mouse.	J Neurochem	101 (6)	1712-22	2007
Satake W, Mizuta I, Suzuki S, Nakabayashi Y, Ito C, Watanabe M, Takeda A, <u>Hasegawa K, Sakoda S, Yamamoto M, Hattori N, Murata M, Toda T.</u>	Fibroblast growth factor 20 gene and Parkinson's disease in the Japanese population	Neuroreport	18(9)	937-40	2007
Nagai Y, Inui T, Popiel HA, Fujikake N, <u>Hasegawa K, Urade Y, Goto Y, Naiki H, Toda T.</u>	A toxic monomeric conformer of the polyglutamine protein.	Nat Struct Mol Biol	14(4)	332-40	2007

Kita H, Chiken S, Tachibana Y, <u>Nambu A.</u>	Origins of GABA _A and GABA _B receptor mediated responses of globus pallidus induced after stimulation of the putamen in the monkey.	J Neurosci	26	6554-6562	2006
Miyachi S, Lu X, Imanishi M, Sawada K, <u>Nambu A</u> , Takada M.	Somatotopically arranged inputs from putamen and subthalamic nucleus to primary motor cortex.	Neurosci Res	56	300-308	2006
Kita H, Chiken S, Tachibana Y, <u>Nambu A.</u>	Serotonin modulates pallidal neuronal activity in the awake monkey.	J Neurosci	27	75-83	2007
Nakatsuka A, Nagai M, Yabe H, Nishikawa N, Nomura T, Moritoyo H, Moritoyo T, <u>Nomoto M.</u>	Effect of clarithromycin on the pharmacokinetics of cabergoline In healthy controls and in patients with Parkinson's disease.	J Pharmacol Sci	100	59-64	2006
<u>Nomoto M</u> , Nagai M.	Pharmacological consideration of the symptoms resistant to Dopaminergic Therapy.	Parkinsonism & related Disord	12	S83-S87	2006
<u>Nomoto M</u> , Nagai M, Nakatsuka A, Nishikawa N, Yabe H, Moritoyo H, Moritoyo T, Nomura T.	Pharmacokinetic characteristics of agents applied in the treatment of Parkinson's disease.	J Neurol	253 (S3)	53-59	2006
Shimizu T, Iwata S, Miyata A, Fukuda T, <u>Nomoto M.</u>	Delayed L-DOPA-induced hyperalgesia.	Pharmacol Biochem Behav	85	643-647	2006
<u>Murata M.</u>	Pharmacokinetics of L-dopa. Special reference to food and aging.	J Neurol	253 (S3)	47-52	2006
<u>Murata M</u> , Hasegawa K, Kanazawa I, The Japan Zonisamide on PD Study Group.	Zonisamide improves motor function in Parkinson disease: a randomized, double-blind study.	Neurology	68 (1)	45-50.	2007
Fnayama M, Li Y, Tomiyama H, Yosino H, Imamichi Y, Yamamoto M, <u>Murata M</u> , Toda T, Mizuno Y, Hattori N.	LRRK2 G2385R variant is a risk factor for Parkinson disease in Asian population.	Neuro Report	18(3)	273-5	2007

金川 基, 戸田達史, Campbell KP.	ジストログリカンの糖鎖修飾と先天性筋ジストロフィー.	THE LUNG perspective	14	323-329	2006
戸田達史.	福山型筋ジストロフィー.	小児科診療	69	517-525	2006
水田依久子, 戸田達史.	PARK1, PARK4 (α -synuclein).	Clin Neurosci	25	72-73	2007
南部 篤.	DBSに神経生理学が寄与できること	臨床脳波	48	327-336	2006
野元正弘, 中塚晶子, 森豊隆志, 森豊浩代子, 永井将弘.	代替医療, 特に健康食品の副作用, 合併症について.	臨床薬理	37 (2)	S35-S36	2006
森豊隆志, 野元正弘.	RNA干渉による創薬.	神経治療学	23 (1)	37-43	2006
永井将弘, 野元正弘.	神経疾患の適応外使用薬—エビデンスからの視点	EBM ジャーナル	7 (3)	66-71	2006
永井将弘, 野元正弘.	HTLV-I 関連脊髄症(HAM)の病態と治療	愛媛医学	25 (2)	87-91	2006
西川典子, 野元正弘.	MAO-B 阻害薬, COMT 阻害薬の効果と安全性に関するエビデンス.	最新医学 別冊		115-121	2006
永井将弘, 野元正弘.	今後出てくる新しい治療法.	Pharma Medica	24 (9)	57-60	2006
野元正弘.	医療現場で期待される治療薬—パーキンソン病について—.	PHARMSTAGE	6 (8)	70-72	2006
野元正弘.	ドパミンアゴニストのより良い治療選択を探る.	Pharma Medica	24 (10)	133-135	2006
野元正弘.	非麦角系ドパミンアゴニストの治療戦略(座談会).	Pharma Medica	24 (10)	135-138	2006
野元正弘.	日常よくみるふるえの診断と治療.	鹿児島市医報	45 (12)	41-42	2006
野元正弘.	中毒治療における適応外使用の倫理.	中毒研究	20	27-30	2007
長谷川一子.	パーキンソン病では, 薬物治療を早期に始める方が, 病状進行を遅くすることができるのか?	治療	88	1107-1111	2006
長谷川一子.	PARK8パーキンソニズムについて	神経内科	65	121-127	2006
長谷川一子.	家族性パーキンソニズム—PARK8パーキンソニズムを中心に	脳神経	58	371-380	2006